

マクロ経済学 第10回 解答解説

A1. ○ (📖 VテキストP441)

A2. × (📖 VテキストP441)
固定相場制 (Q1) と逆の結論になる。

A3. × (📖 VテキストP439～440)
資本流入, 自国通貨に増価圧力がかかる。変動相場制では自国通貨が増価して純輸出が減少するため, IS曲線が左方シフトして元の位置に戻る ($\therefore$ 無効)。固定相場制では通貨当局の介入により, 貨幣供給量が増えるため, LM曲線が右方シフトする ($\therefore$ 有効)。

A4. ○ (📖 VテキストP437～438)

A5. ○ (📖 VテキストP471)

$$g_A = g_Y - (ag_K + (1-a)g_L) = 2.8\% - (0.2 \times 5\% + 0.8 \times 1\%) = 1\%$$

A6. × (📖 VテキストP473～474)

労働者1人あたり成長率 $g_y = g_Y - g_L$ について, $g_Y = 4\%$, $g_y = 2\%$ だから, この期間の労働人口増加率は, $g_L = g_Y - g_y = 2\%$ である。したがって, 労働者1人あたり資本ストック増加率は, 資本ストック増加率が $g_K = 3\%$ だから,

$$g_k = g_K - g_L = 3\% - 2\% = 1\%$$

である。